

令和5年7月13日

都道府県言語聴覚士会
会長各位

一般社団法人 日本言語聴覚士協会
会長 深浦順一

タスク・シフト/シェアを踏まえた言語聴覚士の業務に関する実態調査への協力依頼

平素より本協会の事業につきまして格段のご理解とご協力を賜り、厚く感謝を申し上げます。

さて、令和3年9月30日発出の通知の通り、医師の働き方改革の一環として医療関係職種タスク・シフト/シェアが推進され、言語聴覚士に関する4項目についてはすでにタスク・シフト/シェアが行われています。今回はこのタスク・シフト/シェアによって言語聴覚士の業務がどのように変化したか、その実態把握を目的に調査を実施いたします。

今回の調査結果は、言語聴覚士の需給調査※の補足資料を作成する際に使用させていただきます。言語聴覚士の需給ならびに業務に関わる調査は、タスク・シフト/シェアによる今後の職域拡大に関わるだけでなく、人材確保および処遇改善に関わる重要な調査です。全国各地の実態を把握することが肝要であり、多くの会員の皆様の回答を集める必要があります。調査へのご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

※厚生労働省労働科学研究費補助金 健康安全確保総合研究分野 地域医療基盤開発推進研究「医療専門職の実態把握に関する研究」

[医療専門職の実態把握に関する研究 | 厚生労働科学研究成果データベース \(niph.go.jp\)](https://niph.go.jp/)

記

調査の目的：言語聴覚士が担うタスク・シフト/シェア4つの項目について、①意識開発・啓発、②知識・技術の習得、③余力の確保の3点について実態を把握するとともに、推進するための課題を把握する。

4つの項目以外に今後検討すべき具体的項目について意見を集める。

調査の方法：Google formsを用いて、協会ホームページまたは下記URLから回答する。

<https://forms.gle/s2eA1Y2eYffEoqCe7>

回答は**1施設1件**とし、原則として言語聴覚療法部門の責任者の方に回答を依頼します。

調査期間：令和5(2023)年7月15日から8月15日(1か月)

以上

参考：言語聴覚士に関わるタスク・シフト/シェアの4項目

- リハビリテーションに関する各種書類の作成・説明・書類交付（リハビリテーション総合実施計画書、計画提供料に関わる書類、目標設定等支援・管理シート等）や非侵襲的検査の定型的な検査を説明する。
- 医師又は歯科医師のプロトコールに基づき侵襲性を伴わない嚥下検査を実施し、その検査結果について客観的に解釈し、医師に報告する。
- 嚥下訓練・摂食機能療法において、患者の嚥下状態に応じた食物形態等を選択する。
- 高次脳機能障害（認知症含む）、失語症、言語発達障害、発達障害などの評価に必要な臨床心理・神経心理学検査項目の提案、実施及び検査結果を解釈し、医師に報告する。

問い合わせ先：pref@japanslht.or.jp

ご不明な点がございましたら、お問い合わせください。

担当：黒羽